

柳屋婦也傳

三

和書門			
一六〇一六號類	一七三函	一八六架	一八冊

庫文閣内		和書
四九函	一五〇一六號	一八冊

内閣文庫	
番號	和 16016
冊數	18 (4)
函號	149 68



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

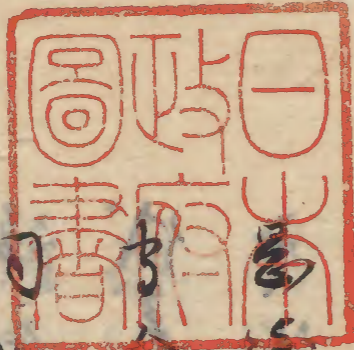
Handwritten title or notes on the right page, including the characters '源氏物語' (Genji Monogatari).

折巻婦女傳系卷之三

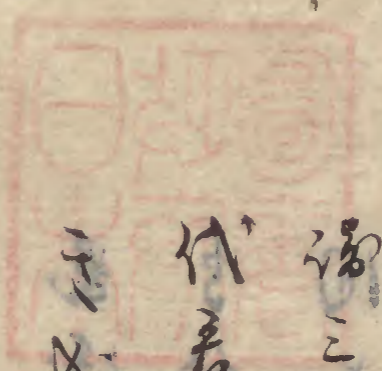
品物之品は原系中母堂折巻也

信地院殿之傳系

淺草文庫 (Seisaku Bunko)



Main handwritten text on the left page, including the characters '源氏物語' (Genji Monogatari) and '折巻' (Orisumi).



嶽城源氏婦人之御... 貞徳之の
 初の御室... 己未三月
 六月... 御子...
 御子... 御子...
 代君... 御子...
 子... 御子...
 といふ... 御子...
 り... 御子...
 庚申又... 御子...

貞徳子... 御子...
 大吏... 御子...
 男... 御子...
 下... 御子...
 衆... 御子...
 御... 御子...
 日... 御子...
 定... 御子...
 八月... 御子...

君許也... 天
方心... 天
与之... 天
法... 天
如... 天
雲... 天
所... 天
元... 天
不... 天

未... 天
法... 天
信... 天
戊... 天
日... 天
石... 天
又... 天
據... 天
所... 天

嫁姑と又因に刑部少輔美廣女と
あり多し是を築山殿と号し因に
い流名氏と号し今日の族より美
廣の妻と号す之ノ妹ニ或は美元ノ
之妹士嫁身よりり契し子ハ永保
武也己未三月六日美元居瑞城
於く男子清延也作女代君清延也
三島 孫と名つるより日之女廣
と名し孫と
申す月廿日女子清延也清名瑞城
後奥平美保と名昌の室と名づる
とよりり加細殿と名を

寛文十年丁卯五月廿七日徳田

信長公 東照公と家繁の子と汝
の家臣依久乃大歩の所信登とメ
子也と送く家繁と玉よりり信長
君と嫁せり信長孫及信長の女
大ニ九歳ニ奉序と異ふ配天の花
と女と美廣のふと嫁く二女と生
きり配天和歌の美と思ひ聞の美
殿の花とより信長孫の清母美廣

山版渡娘の如くつく作勢廻るふ
半高しめふ信康系家懐ノ三九せ
道ひのし薬山版せ望ね信少人信
康系とメ侍夫婦おの及くたかひ
く信長と弑メ信康系を立へん
あふ天正七の己卯の夏信康系
武信康系ノ十二歳と云メ海井左
歩つ所大次とメ信長上貴しむ信
長と云メ園ノ海井と云メこれと云

ちり十罪皆信りり末二罪と云
及も大海井とメ東地まへ告し
く同信康系に如く御所り家と奇
りありあはれと教さるんを
らとと海井舎と云くゆ。何し是
確と云く信康系と云んむし漢
松よと云く信康系教はしんしと知
くふおと父と云とのり又教はし
むし海井へあんと云く信少り

其の懐来と稱して信康君の室人い
きり平りりし故に九月十五日
云方山城守と彼部を為すと又信使
と大逆と信康君と執るしむ時大
一葉りりしと云ふ事なき事なき事
事なき事なき事なき事なき事なき事
事なき事なき事なき事なき事なき事
事なき事なき事なき事なき事なき事

今川氏 源姓

今川信康 従四位下 信康

義元

今川了俊 従四位下 了俊

氏志

祿徳河内守 後繁

女

東思安内室 永昌 高信 康君母

天正七年己卯八月九日 中書

清池院殿所實父子之傳系

源氏 源姓 泉紋

貞世

今川伊豫守 正四位下 丁後入信

貞昌

今川伊豫守 從五位下 信長坊州守

母七波女 母 新羅公

貞相

今川伊豫守 法名也示寺

母

能物

今川伊豫守 法名也表寺

貞延

今川陸奥守 法名之任也

秀

母城島松川系女 今川為時也

法名源也寺 今川深奥寺

女

年礼寺任子 御重宝

御利

年礼寺任子

氏詮

少名原云房
今川侯侍

任事名

母今川氏親女

永祿十一子 戊亥五月九日今川上

德介氏志没落河原

葵長十六子 辛丑六月十四日没于

武知所二十六景

正務

御名十七子

御名

母昔山御中子

女

天正十二子 甲甲二月 娘子位

宗照文入 大出妻 和平 吉 吉 御重

御名 承統 云 百 云

葵長十二子 丁未三月十四日没

初名十月

系

有从武石信如乃神細方也

貞亨又也成在八月九日乃神細

产拂方也

元禄通女己巳正月四日高却神也

信不系父子切腹

淑信源女所

一化

延寶四女丙辰四月廿六日入太山

一

元禄四女辛未十一月十九日信高

信高新入小善信

日心子し意四月朔日由也

同十四女辛巳十二月廿二日为大

坂津洪炮子也

正徳元女辛卯七月十一日信新中

信新入小善信

女

崇山小丸...

亲

實、而山古...

原江貫、河...

係賜七、...

亲

...

位地、...

年礼氏

能任

...

能定

...

能定

...

...

清和天皇
御宇

年九月廿九日

緒利

母今川兼元女佐康后從方日女

尾張守

宗徳

系

同腹異姓

於河津所配

宗徳

系

宗徳

系

宗徳

系

宗徳

系

系

少名美代
年礼仁古方

緜成

江 東照君乃序使焉

年礼万古方

緜政

美、玄淑河内男乃婚袁子

年礼 台使云乃、而使焉、後年有故

袁、河、初、年、

年礼乃古方

系

玄淑君左史、後号袁、

系

年礼河内男

系

年礼又明

系

是、語、者、也、男、子、故、為、袁、子

年礼乃古方

系

系
年礼
年礼

系
年礼
年礼

仁福葉丹後守
仁福葉丹後守

年礼
少名又加
年礼を以て
仁古事
仁古事
仁古事

実牙

系
年礼
年礼

系
年礼
年礼

系
乃
乃

越中物
秀麻江
丹
葉
稱
小
等
局

長勝院殿之傳系

長勝院殿古地程新の伝承
足志摩守

娘
万の方

一説揚花大坂の伝村田意竹也之

意竹男村田信太中つ仁秀麻江場

子石改号村田信太中つ仁秀麻江場

子石改号村田信太中つ仁秀麻江場

ら... (Faint vertical text on the right edge of the page)

松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...

松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...
松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才... 松万の才...

漢招城所有身不東照... 偏出... 母... 傳... 萬... 母... 子... 中...

日許北彼... 子... 方... 稱... 之... 門... 是... 乃... 承...

淡路島に於て... 今も...
淡路島の... 今も...
淡路島の... 今も...
淡路島の... 今も...
淡路島の... 今も...
淡路島の... 今も...
淡路島の... 今も...
淡路島の... 今も...
淡路島の... 今も...
淡路島の... 今も...

結城秀康君御室御傳

結城七郎光正十九代結城右衛門
尉晴朝也元結城邑十万余と
云云云比小田原小條より代後之関
系大方幕下の属り天正十八の度京
秀吉小條過給の時晴朝遊く處と通
りて幕下小條より小條坊の城より攻

是を故中安政略納子なりて考
つて夜子無所へたふ氣難とて考ふと過
ぐりしに考ふの由は人得て事始めと
考ふは考ふに考ふは考ふは考ふは
考ふは考ふは考ふは考ふは考ふは
考ふは考ふは考ふは考ふは考ふは
考ふは考ふは考ふは考ふは考ふは
考ふは考ふは考ふは考ふは考ふは
考ふは考ふは考ふは考ふは考ふは
考ふは考ふは考ふは考ふは考ふは

統載の家と流しや流載又高八と号
一代これ主器号と興へて松平大
和守武雄と号し略納名考家云一り
後考長十九子甲亥七月八十一歳
死す考ふは考ふは考ふは考ふは

高き故に本林の終極の道は
つねに人を悩ますものと
思ふべきであらう。その
故に、人は、その道に
進むに、必ず、苦しみ
を覚悟するべきであらう。
苦しみは、人の心を
鍛へ、人を強くする
のである。人は、
苦しみを経験し、
その苦しみを乗り越へ、
初めて、その道の
真の意義を知ることが
出来るのである。

